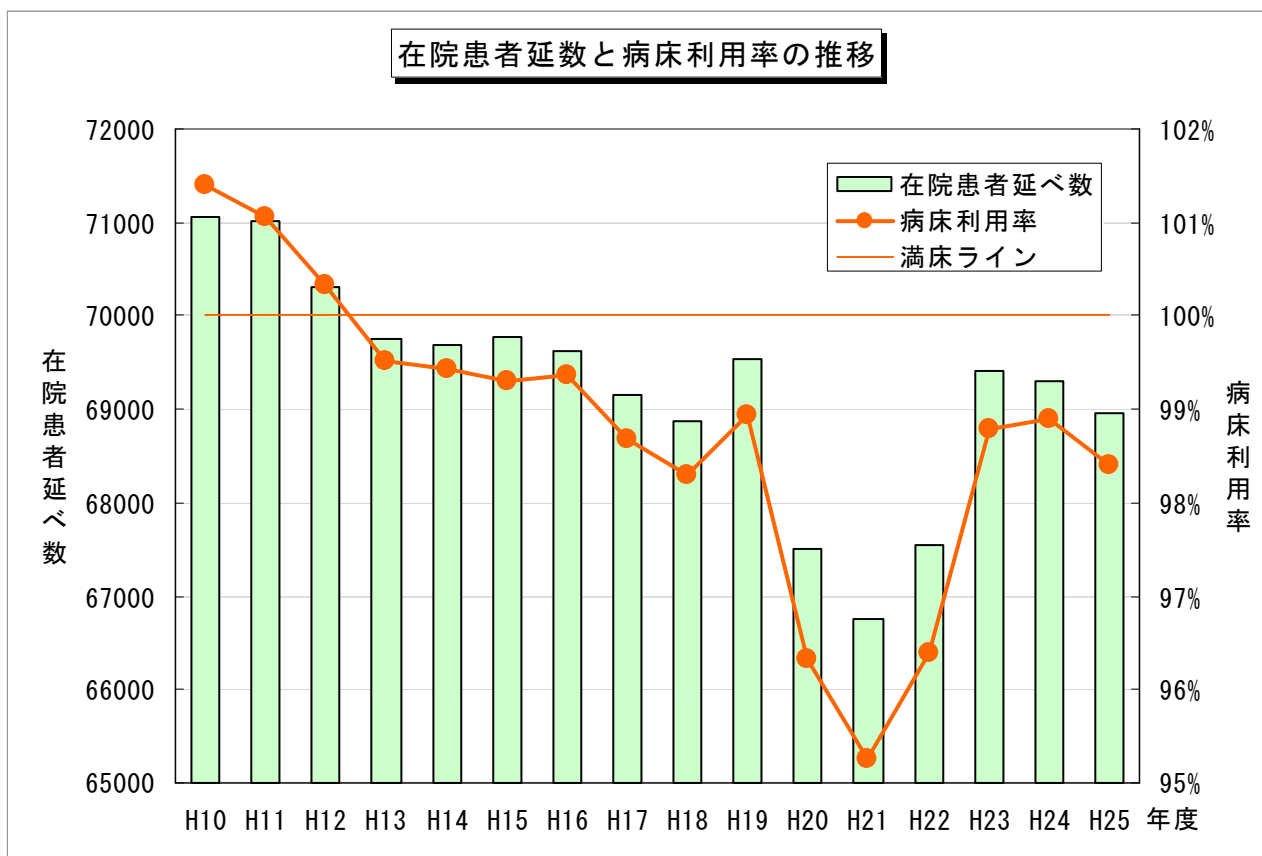
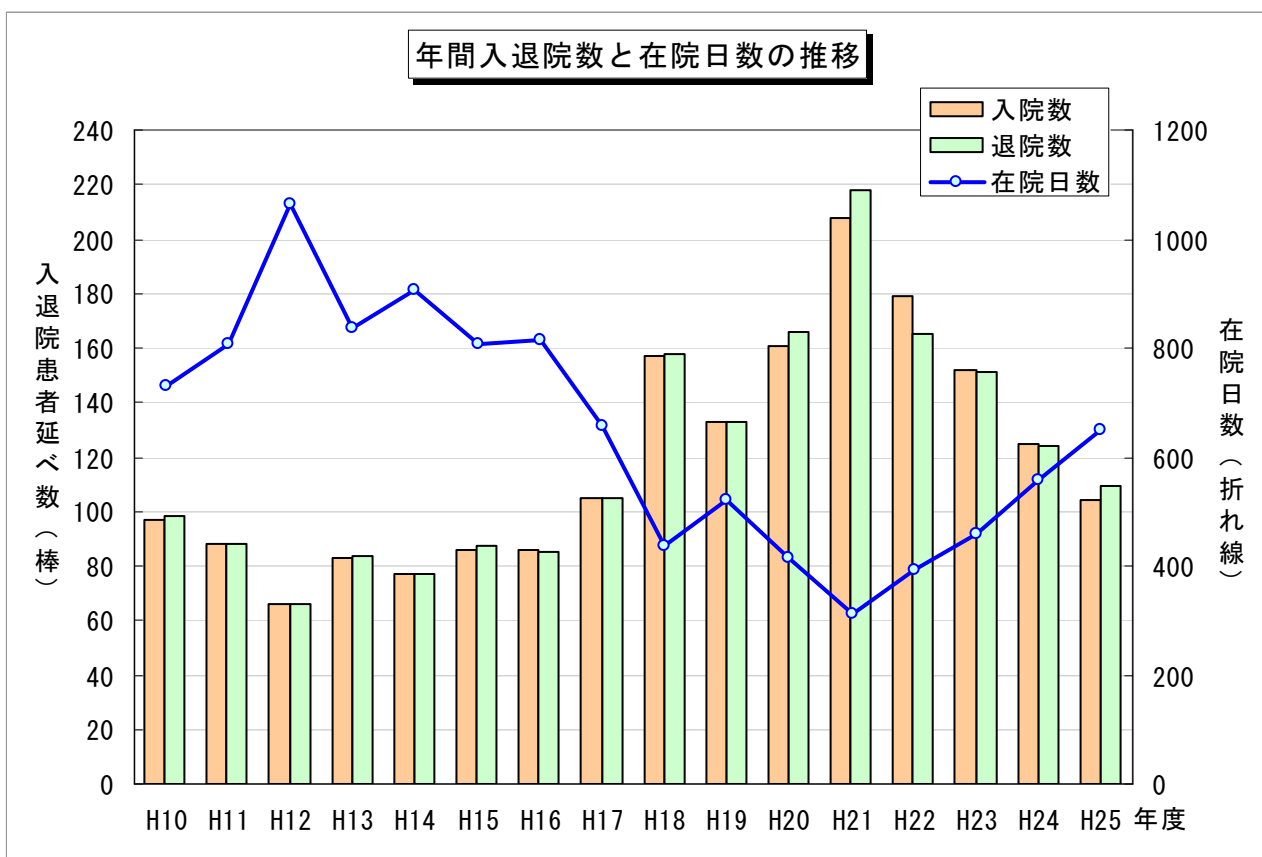
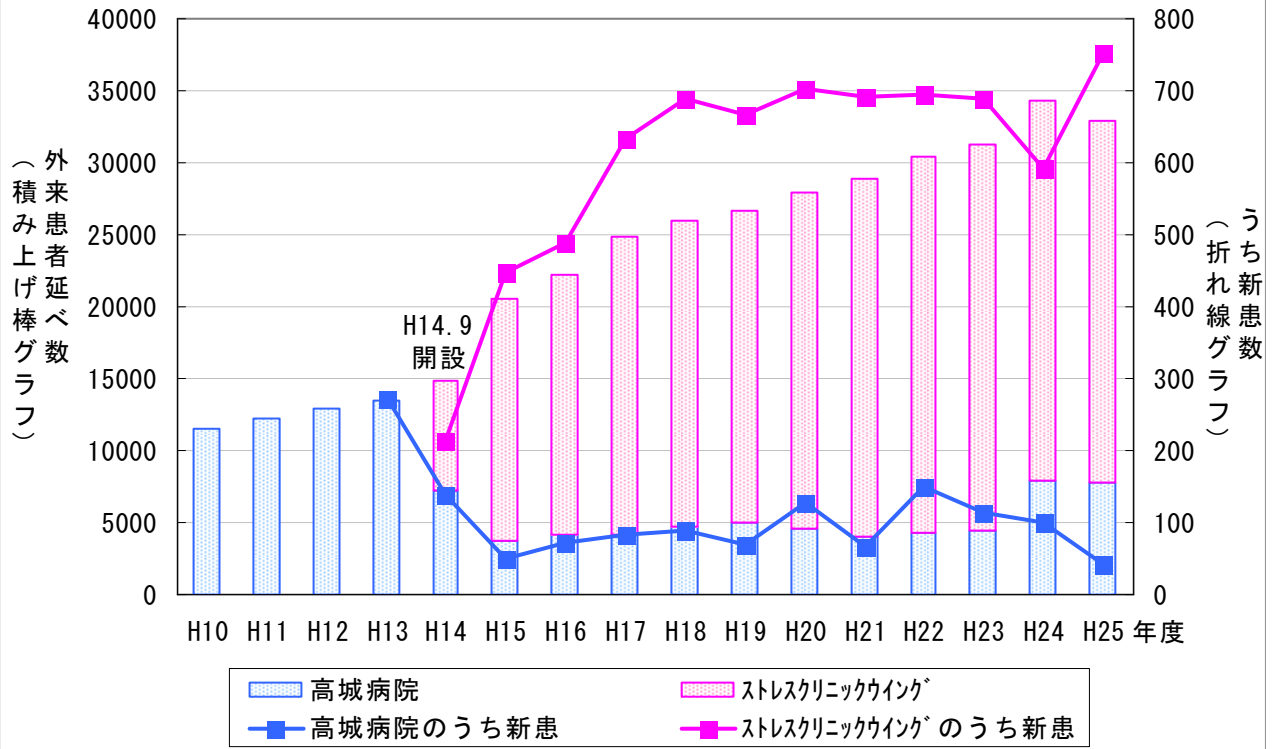


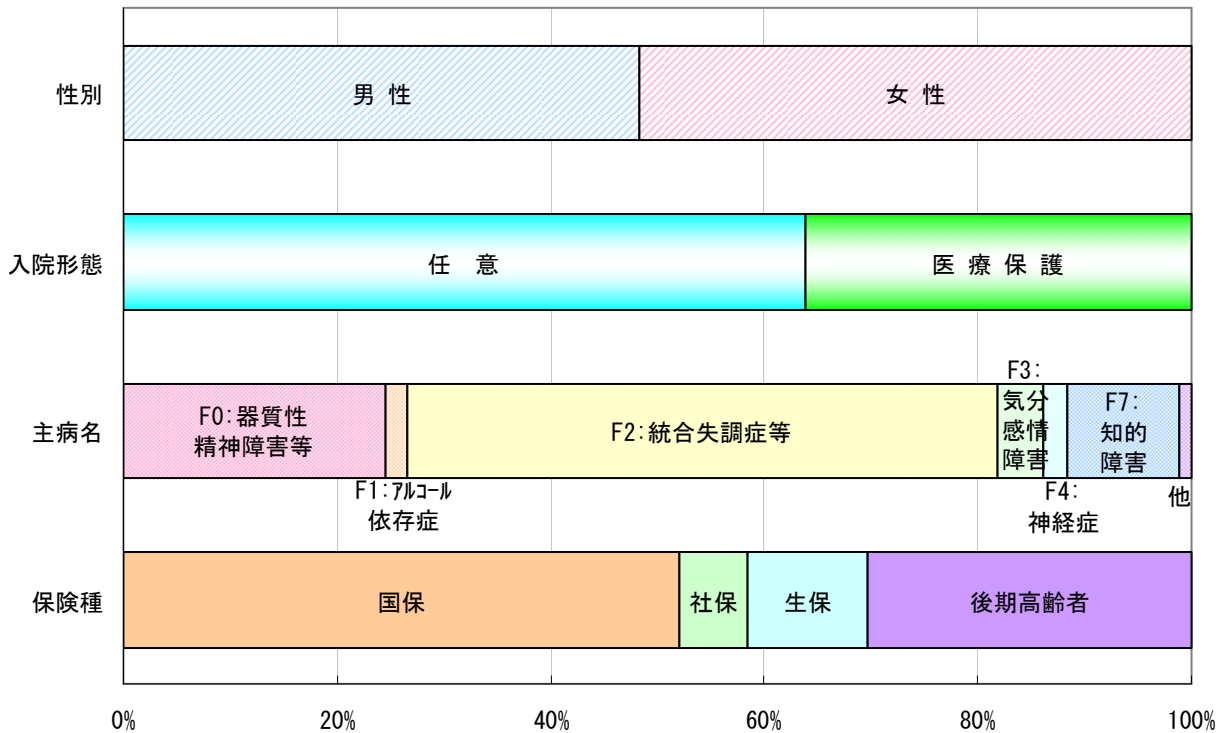
# 入院患者統計



### 年間外来患者数の推移

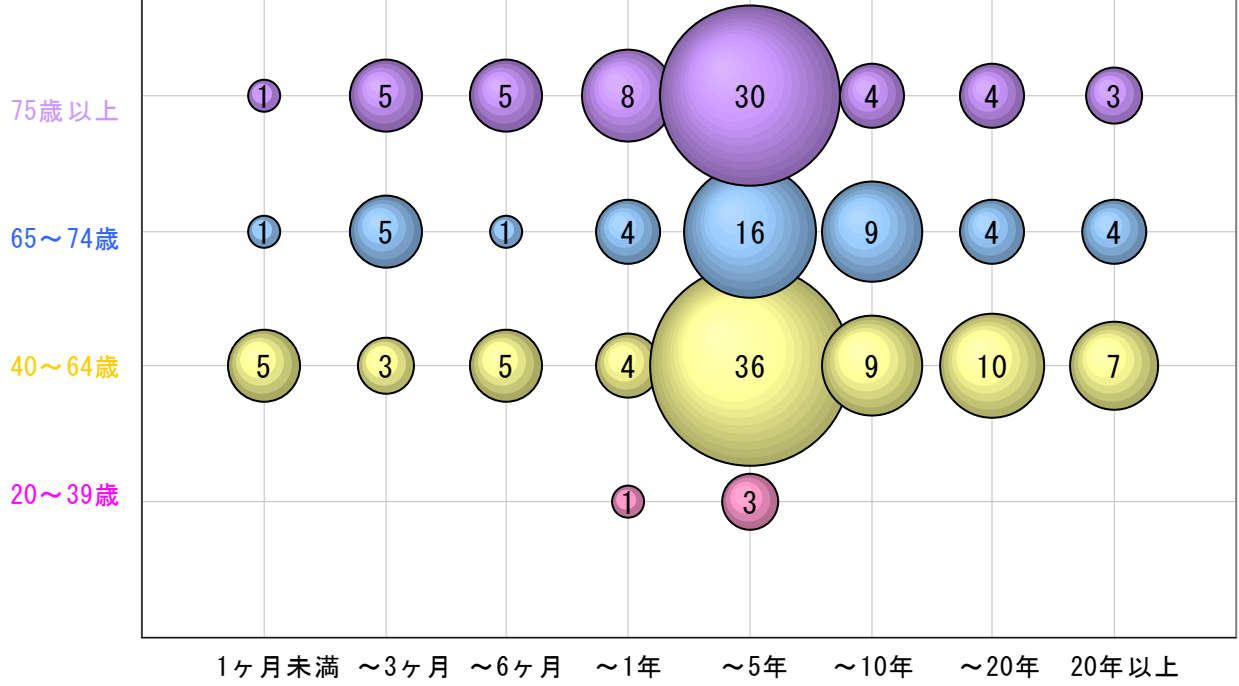


### 入院患者統計 (H26年1月1日現在/全188名)

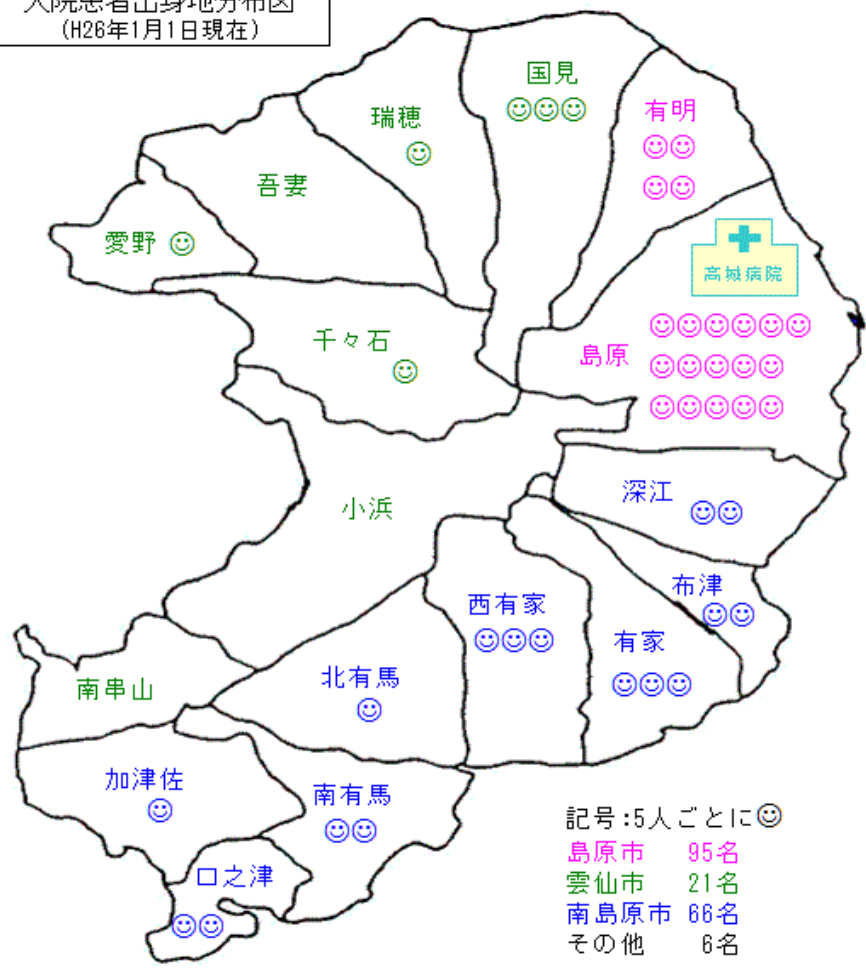


年代別の入院期間 (H26年1月1日現在/全188名) ※円の面積が患者の数を表す

平均年齢  
: 66.7歳

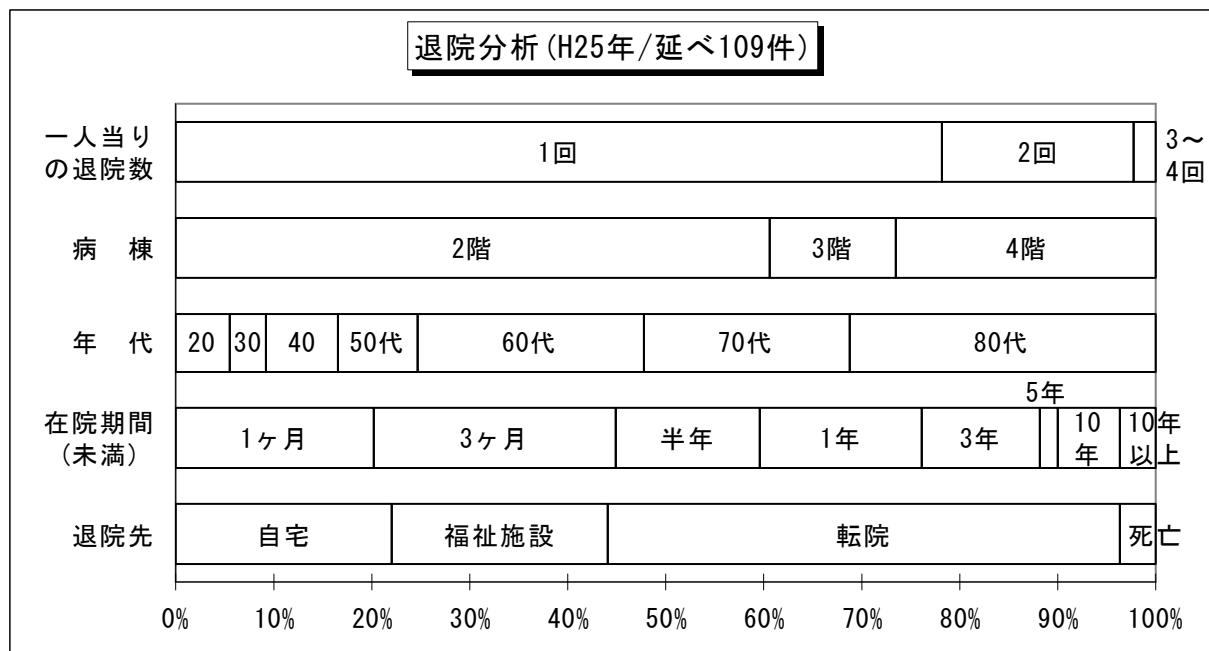


入院患者出身地分布図  
(H26年1月1日現在)



# 退院患者統計

平成 25 年 1～12 月の 1 年間に退院された延べ 109 名の内訳はグラフの通りです。

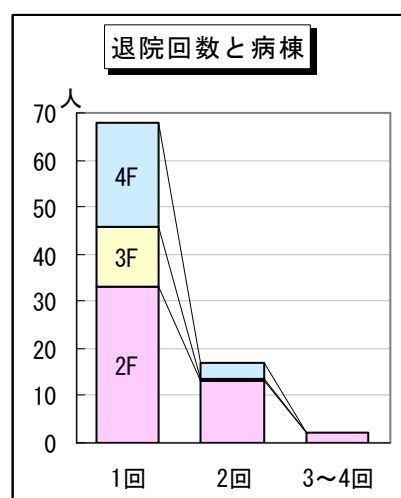
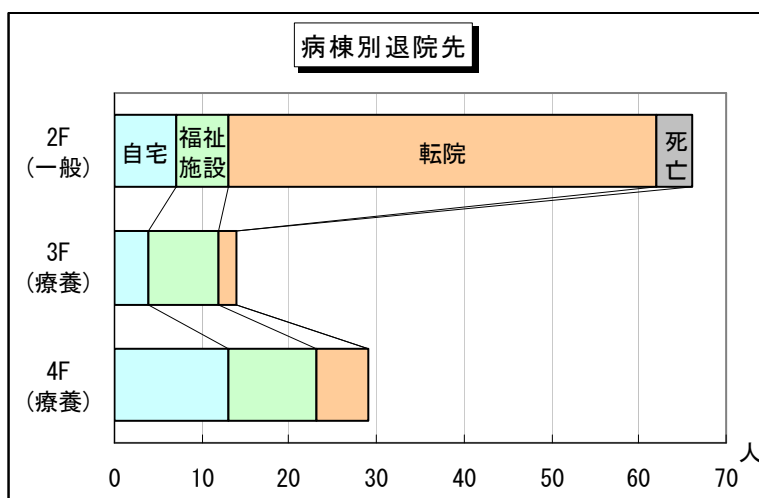


退院が 1 回だったのは 68 名、複数回だったのは 19 名でした。

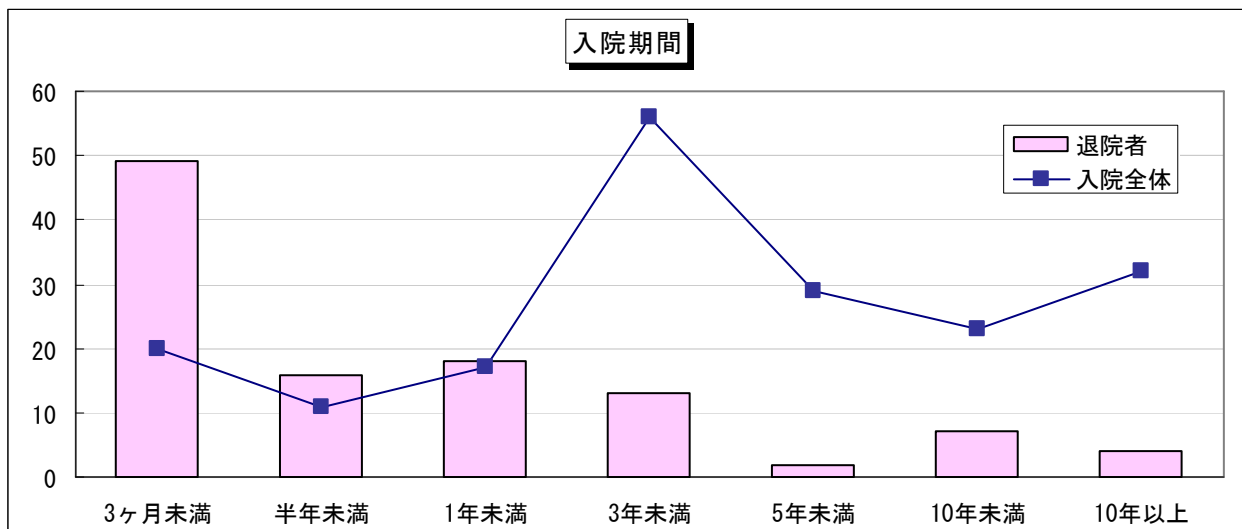
退院前の病棟は 2 階(精神一般病棟)が最も多く、6 割でした。2 階は精神症状や身体合併症が重い患者層が入院しており、下グラフ「病棟別退院先」からも分かるように、転院と死亡退院で 8 割を占めています。グラフ「退院回数と病棟」からは、複数回退院している患者さんの殆どが 2 階病棟だったことも分かります。これらることより、2 階は合併症治療のために入転院を繰り返す方が多いということが出来ます。

3 階・4 階は精神療養病棟で、比較的安定した層が入院されています。2 階に比べ転院は減少し、8 割が自宅や福祉施設へ退院しています。

全体で見ると、転院 52%、自宅と福祉施設が合わせて 44%で、合併症治療のための転院が半分以上を占めますが、地域に帰る患者さんも年々増加しています。



入院期間は、入院患者全体(折れ線)では「1年以上3年未満」が最も多いですが、退院者(棒)の入院期間は、3ヶ月未満が45%、1年未満を合計すると76%で、新しく入院した人ほど早く退院されていることが分かります。平均在院期間も、退院者で1年10ヶ月、全体で5年10ヶ月と、その差は顕著です。

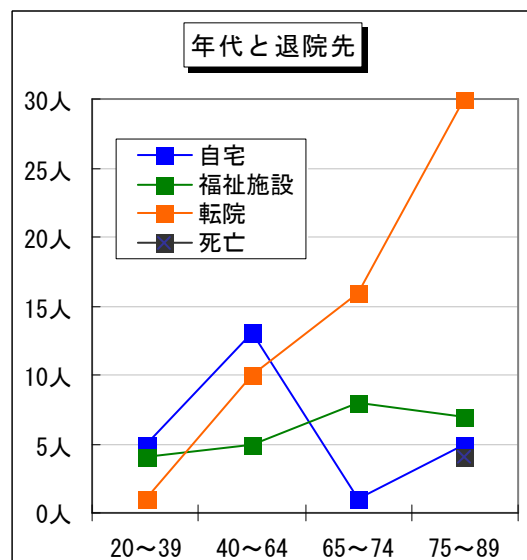
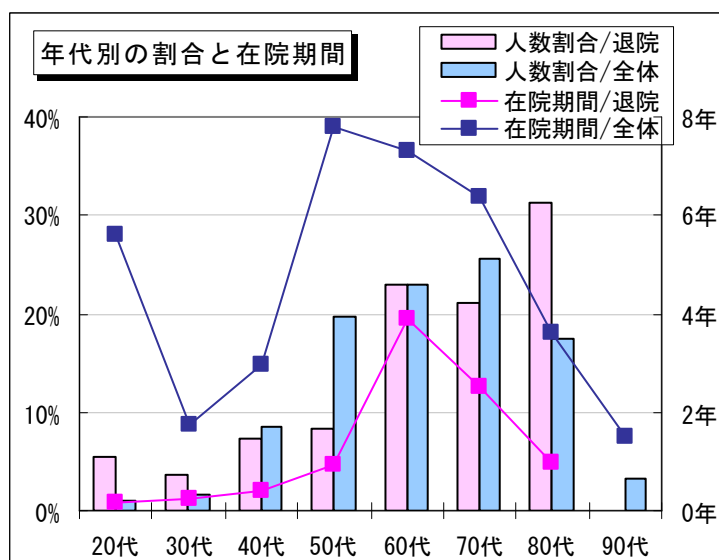


「年代別の割合と在院期間」グラフの棒部分は、年代別に退院者と入院層の割合を示したものの、折れ線部分は在院期間です。50代は入院層に対し退院者が少なく、在院期間も長い傾向にあります。

退院者の年代(ピンク)は、60代以上が75%を占めますが、入院全体(青)でも60代以上は69%なので、入院層と大きな違いはありません。

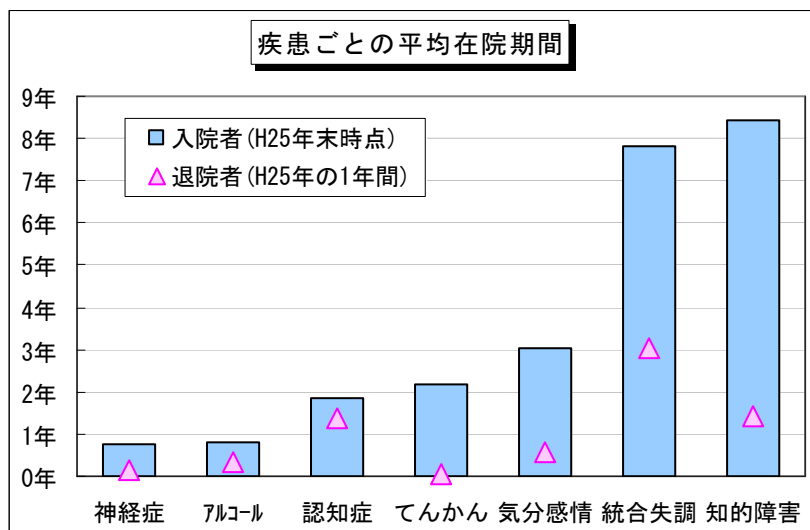
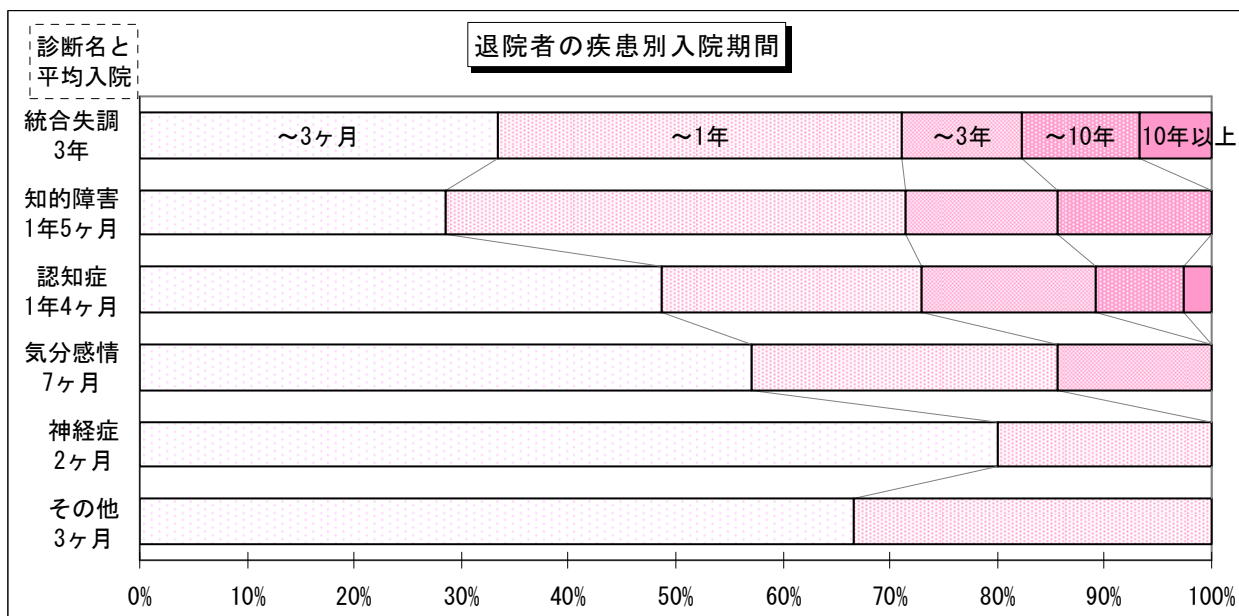
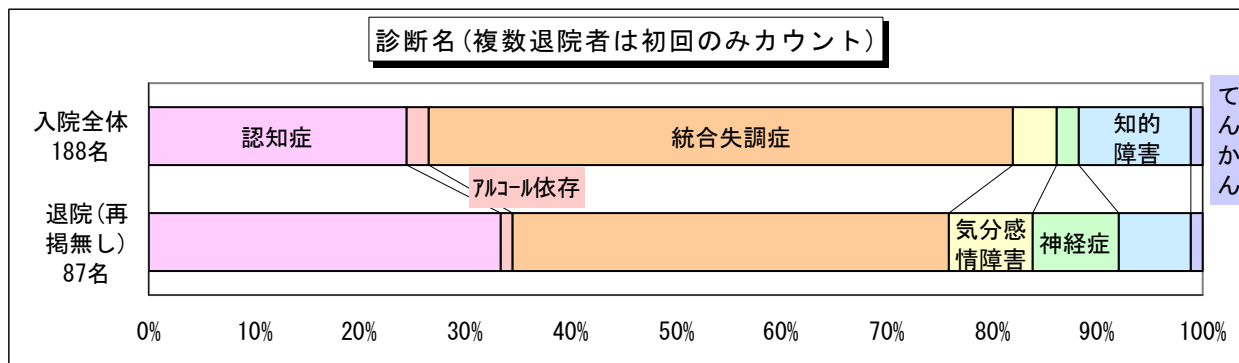
入院層と比べ退院率が高いのは、20~30代の若年層と、80代以上の高齢者層です。これは「年代と退院先」グラフを併せて見ると、若年層は回復が早かったり受け皿が整っていたりするため、高齢層は転院が多く、また安定すると高齢者向けの施設へ移るためと考えられます。

「年代と退院先」をもう少し見ると、どの年代も福祉施設には満遍なく退院していること、65~74歳では世代替わりの影響なのか自宅への退院が難しいこと、年齢とともに身体合併症が増加・重症化するため、年代と相関して転院(死亡含む)が顕著に増加することが分かります。



次に、患者さんの疾病分類です。「診断名」グラフは複数回退院した患者さんの再掲分は除き、1回以上退院した方を1名と数え、入院層全体と比較しています。「退院者の疾患別入院期間」は、退院した延べ109名の退院までの期間で、色が濃くなるほど入院期間が長いことを示しています。

気分感情障害や神経症は、比較的短期間で退院しています。入院層に比べ認知症の割合が14ポイント多いですが、これは既述のように高齢者に転院が多いためと考えられます。一方、統合失調症は9ポイント少なく、「疾患別入院期間」からも分かるように退院までの期間に最もばらつきがあり、平均入院期間も長い疾患です。



ただし上記は「退院した方」の入院期間であり、「入院継続の方」の平均入院期間(平成25年末時点)は、グラフの青棒部分のように知的障害が最も長く8年5ヶ月、次いで統合失調症7年10ヶ月となります。退院した方の入院期間をピンクの▲でプロットしているのと比較すると、知的障害では退院された方の入院期間は短いものの、退院していない人は長く入院しているという傾向が他の疾患に比べ顕著です。知的障害では3割が10年以上入院し

ており、最も長い方は41年になることが平均を上げています。若い頃より長期間当院で暮らしている知的障

害の方は、福祉施設の整ってきた昨今でも、加齢の影響も相まって新しい環境に適応するのが難しいのかもしれない。